

いざというときに備えて

避難できるように、出入口や通路には物をおかない
 玄関などの出入口までの通路に家具などの倒れやすいものを置かないようにしましょう。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに出入口をふさいでしまうことがあります。

非常時の準備

いざというときに備えて、非常用の持ち出し品を常に確認しておく、できればあらかじめ、リュックの中に次のものを用意しておく



とよいでしょう。

水、保存食品（インスタントラーメン、缶詰のごはんなどの長期間保存可能な製品）、下着などの着替、靴下、手袋、雨具、洗面用具、医療品、ラジオ、小物類（缶切り、栓抜き、ナイフ、マッチなど）、ビニール製敷物、ビニール袋、懐中電灯など

また、乳幼児のいる家庭では次の物などを用意するとよいでしょう。

ミルク・ほ乳びんなど、おむつ、ベビーフードなど（最低3日分以上を用意）

これら非常品は避難時にさっと取り出せるように、押し入れなどに入れず、寝室などすぐに持ち出せる場所に置きましょう。

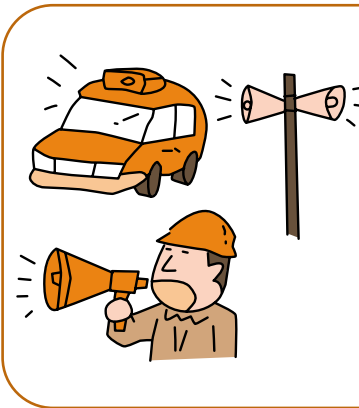
避難の方法

危険が予測されるときやすぐに押し寄せる災害から安全を確保する緊急行動を、避難と言います。

単純に、地震の揺れが大きかった場合、「それっ、避難場所へ避難だ」というのは正しい行動ではありません。

揺れている時間や大きさなどに応じて、落ち着いて、まわりの状況を把握し行動しましょう。

また、建物が壊れるかも知れない、がけ崩れが起こるかも知れない



といった状況のときには、市の広報車やサイレンなどによる避難情報に注意し、早めの避難が大切です。

避難場所

市は、第1次避難場所（屋外避難場所）と第2次避難場所（屋内避難場所）を設定しています。

この避難場所については、今年の4月に配布した『市民便利帳』の21～26ページに掲載しています

ので、日ごろから家族で避難場所を確認しておきましょう。



災害・防災に関する
問い合わせ

総務課
(☎ 85 1130)